

出題分析			
試験時間	90分	配点	100点
		大問数	2題
分量（昨年比較）	[減少]	同程度	増加]
		難易度変化（昨年比較）	[易化 [同程度] 難化]
<p>【概評】</p> <p>大問2題の構成は昨年度と同様である。小問構成は、[1]が3問、[2]が4問で、[2]の問1の短答記述以外の小問は論述問題である。論述問題は、100字以内が2問、150字以内が3問、200字以内が1問で総字数は850字で、昨年の1030字に比べ180字少ない。テーマは、[1]は愛媛県西条市に関する問題で、2015年度に九州大学の二次試験で「地理」が導入されて以来、地形図（国土地理院地図）が初めて用いられた。[2]はアフリカの地誌問題であった。解答の作成に時間のかかる小問が見られるものの、答えにくい問題は少ない。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	愛媛県西条市を題材とした国土地理院地図の判読と人口構造の特徴	愛媛県西条市を題材とした、河川地形、干拓地の土地利用、中規模の都市が抱える人口構造の特徴についての問題。問1は、天井川の特徴を大明神川とJR線との位置関係だけでなく、大明神川による砂礫の運搬、堆積にも言及する。問2は、読図から水田が干潟を干拓して造成されたものであると気づきたい。また水田に用いる淡水と海水を分離する堤防および規則的な地割りにも触れる。問3は、西条市では、若年層の人口流出が起きるとともに、人口流入が起こりにくいことを、表1と表2の資料にもとづき説明する。	標準
2	アフリカ	アフリカについて、各国の農産物輸出額上位5品目、南アフリカ共和国のワイン生産の背景、サハラ以南アフリカの多言語使用の状況と歴史的経緯、中国によるアフリカ諸国との政治的・経済的結びつきの強化の背景についての問題。問1の判断は平易である。問2は「自然環境と歴史をふまえながら」とあり、まとめやすい。問3は、母語の民族語、地域共通語、公用語とされている言語の使用状況の一般論を述べる。問4は中国が一带一路を進める背景について、指定語句に即してまとめる。	標準

合格のための学習法

九州大学では、都市や産業について出題されることが多い。自然地理的なテーマが大問で出題されることは少ないが、日頃から押さえておくことが重要である。出題内容は教科書や日頃の学習で用いる参考書などで取り上げられるものが多いが、正答として要求される事項には、系統地理も地誌も詳細に理解しておくことが求められる。日常の学習で知識を蓄える際には、単なる地理用語の理解にとどまらず、事象や因果関係まで細かく探究する姿勢が要求される。論述問題には、各問題文や指定語句の中に盛り込むべき方向性が示されるものが多いことに留意する。また、読み取りと判断が求められる各資料には平易なものが多い。そして、過不足なく論旨を展開する訓練を日頃から積んでおきたい。大問2題の構成であるので、学習の手薄な分野を作らないようにするだけでなく、各分野についてしっかりと学習しておくことが重要である。